

# 特定健康診査について

健康づくり課

# 特定健康診査の概要

## 【目的】

- ・メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣病発症予防を目的として実施

## 【対象者】

- ・40歳以上75歳未満の国民健康保険被保険者  
※後期高齢者医療制度の加入者（75歳以上）に対しても特定健診に準じた健康診査を実施

## 【検査項目】

- ・問診、身体計測、血圧、肝機能検査、血中脂質検査、腎機能検査、尿検査、貧血検査、血糖検査 等

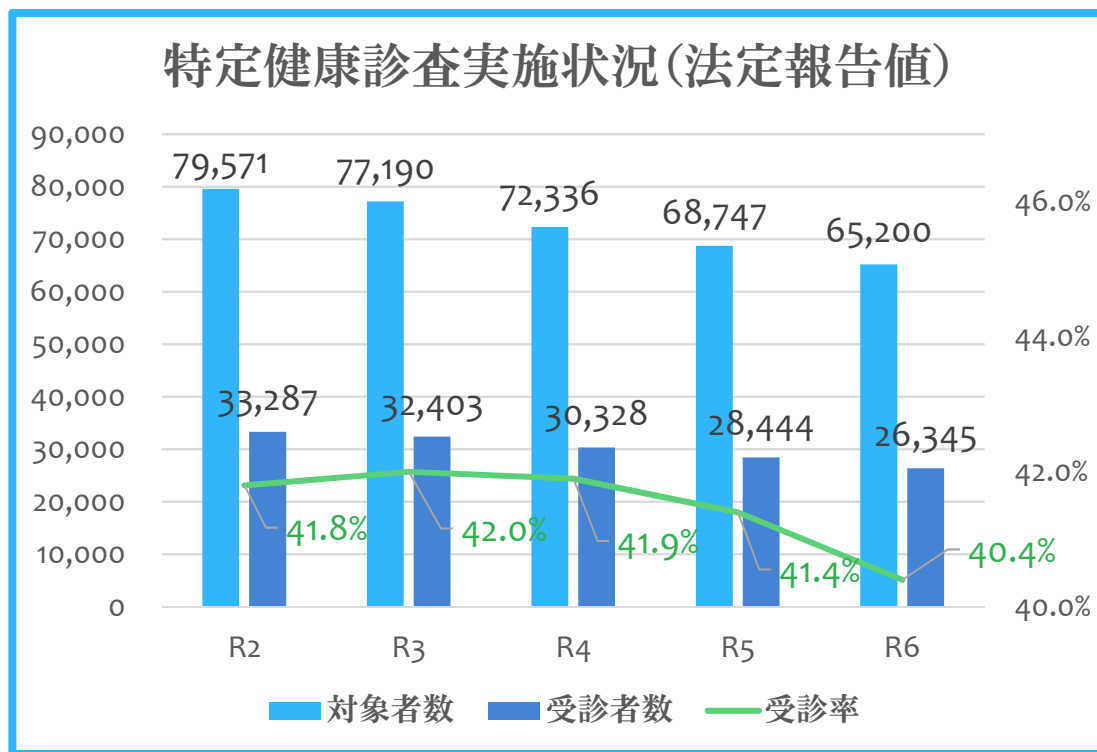
## 【実施方法】

船橋市医師会に委託	協力医療機関（約160機関）にて受診可能
実施期間	5月～翌年3月末
受診券発送	誕生月に応じて、対象者に受診券を個別発送

## 【受診率向上の取組】

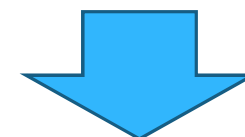
- ・特定健康診査結果とレセプト情報をもとに、対象者にあわせた7種類の通知により未受診者勧奨を実施
- ・令和7年度から、未受診者勧奨発送後も受診が確認できない方に対する再勧奨を開始

# 特定健康診査の対象者数と受診者数



- 対象者である40歳から74歳の国保被保険者は、継続して減少傾向。

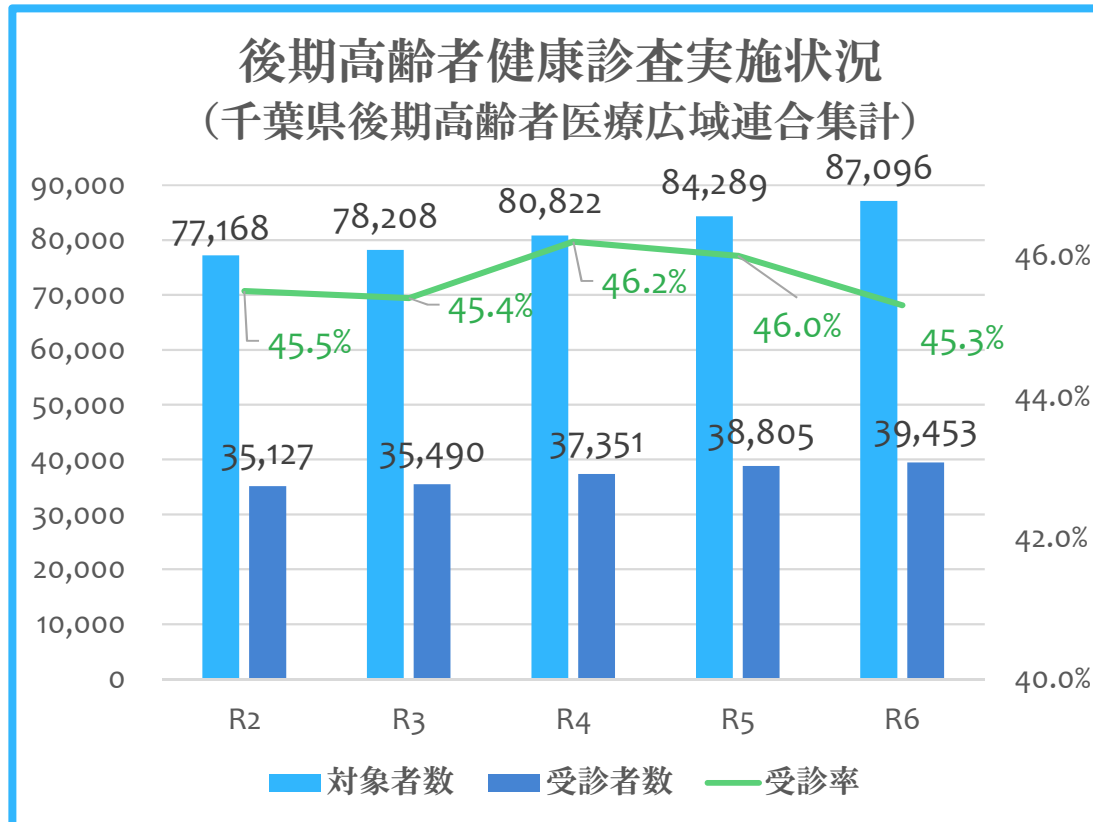
- 受診率は、概ね横ばいで推移してきたが、令和6年度は低下。



令和7年度は受診率向上のため、未受診者勧奨の拡大、包括連携協定事業者と協働した事業周知など、積極的な受診勧奨を行っている。

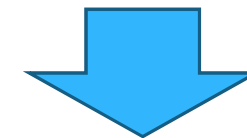
目標	本市実績 (R6)	千葉県平均 (R6)
60%	40.4%	39.1%

# 後期高齢者健康診査の対象者数と受診者数



- 対象者である後期高齢者は年々増加。

- 受診率は45%~46%で推移しており、県内でも上位の実績を維持している。



引き続き、対象者への個別通知での受診勧奨を行うとともに、千葉県後期高齢者医療広域連合と連携し、事業周知を図っていく。

本市実績 (R6)	千葉県平均 (R6)
45.3%	35.3%

# 特定保健指導について

健康づくり課

# 特定保健指導の概要

## 【目的】

生活習慣を見直すための保健指導を行なうことで、対象者が健康に関するセルフケアを継続できるよう促し、生活習慣病を予防する。

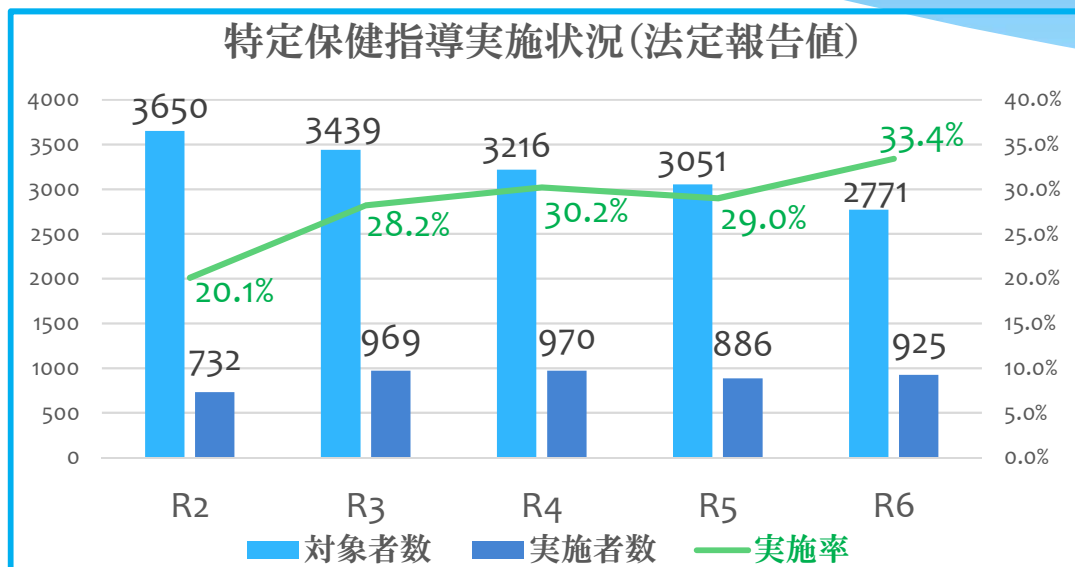
## 【対象者】

特定健康診査の結果に基づき、基準に該当した者を積極的支援、動機づけ支援に階層化し、対象者を選定する。

## 【実施状況】

船橋市医師会へ 委託して実施	健診実施医療機関のうち約40機関 健診結果説明の際に支援を開始 (当該年度6月～3月末まで実施)
医療機関以外での実施	健診受診後、3～4か月以降に健康づくり課や委託先の事業者で利用を勧奨し、支援を開始(当該年度7月～翌年度8月末まで実施)

# 特定保健指導の対象者数と実施者数



- 特定健診対象者数の減少に伴い、特定保健指導の対象者数も減少
- コロナによる面接制限の影響でR2年度は実施率が低下したが、その後は回復傾向である。

※法定報告値は実施年度の翌年度11月に確定

【課題】 特定保健指導実施率の目標値に到達していない（R6年度）

目標	本市実績	千葉県平均
35%	33.4%	24.9%

【見直しの内容】

- ICT活用の推進（オンライン、アプリ等の活用）
- 対象者のニーズにそった保健指導の方法を選択（オンラインや身近な場所での面接、夜間や休日を利用する等）

# 慢性腎臓病対策事業の概要

(平成25年度～)

## 【目的】

腎機能低下リスクが高い者に対して早い段階から保健指導を実施し、腎機能低下を抑制して、QOL低下の大きな原因となる新規人工透析導入者数を減少させる

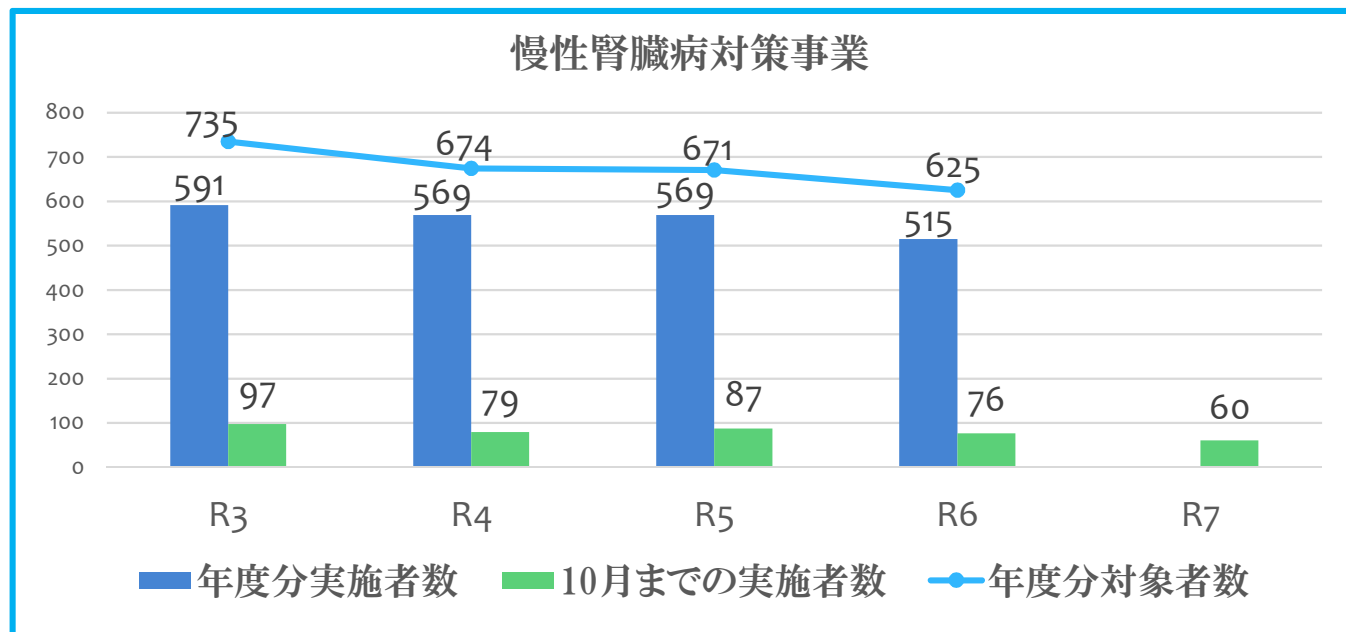
## 【対象者】

特定健康診査の結果、腎機能の低下が認められる者  
(腎機能の指標であるeGFR値・尿蛋白値の基準値を超えた者)

## 【支援内容】

- ・ 訪問や面接、電話にて受診勧奨し、かかりつけ医がいる場合は療養上の指示を仰いだ上で対象者の腎機能レベルに応じた保健指導を実施
- ・ 初回支援から2～3か月後に継続支援を行い、受診結果や行動変容の有無を確認

# 慢性腎臓病対策事業の対象者数と実施者数 (初回面接実施者数)



- 腎機能は加齢に伴い低下しやすいため、船橋市医師会CKD対策委員会からの進言もあり、R2年度より本市独自の対応として、70代まで対象者基準を拡大。  
R3年度以降も千葉県の基準に沿って変更。
- 10月末時点の比較としては、R7年度実績はやや減少。

# 糖尿病性腎症重症化予防対策事業の概要

(平成28年度～)

## 【目的】

血糖値が高い者を適切な受療行動に結びつける。  
保健指導にて糖尿病性腎症の発症または悪化を防ぎ、医療費負担の大きい新規人工透析導入者数を減少させる。

## 【対象者】 糖尿病による腎機能低下リスクが高い者

- 特定健康診査の結果、HbA1c、血糖値、尿蛋白、eGFR値の基準値を超えた者
- 糖尿病の治療中断者や未治療者

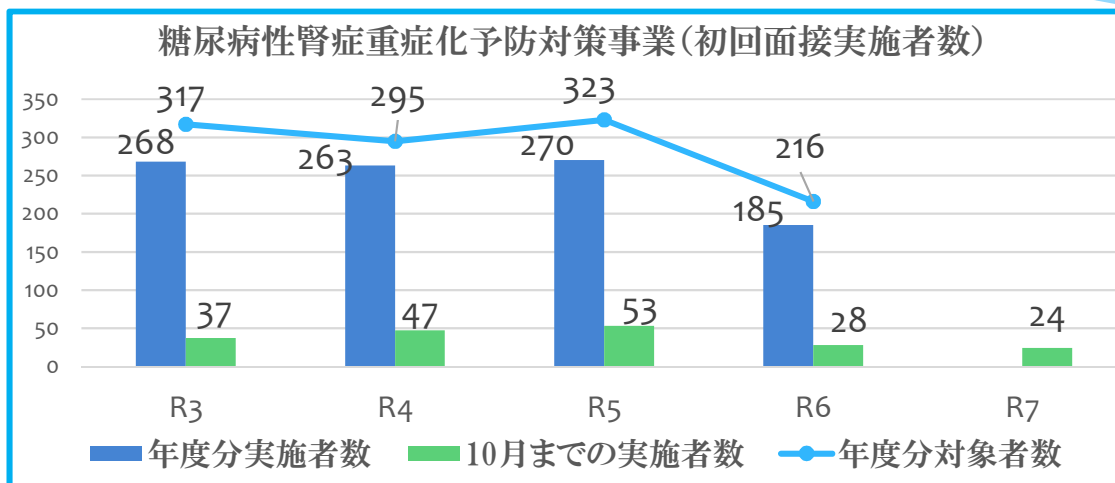
## 【支援内容】

- 訪問や面接、電話での受診勧奨
- かかりつけ医より療養上の指示を仰いだ上での保健指導
- 初回支援から6か月間の継続支援（運動教室含む）
- 治療中断者、未治療者へは受診勧奨の文書を送付。その後も未受診が継続する場合は電話や再度文書にて受診勧奨を行う。

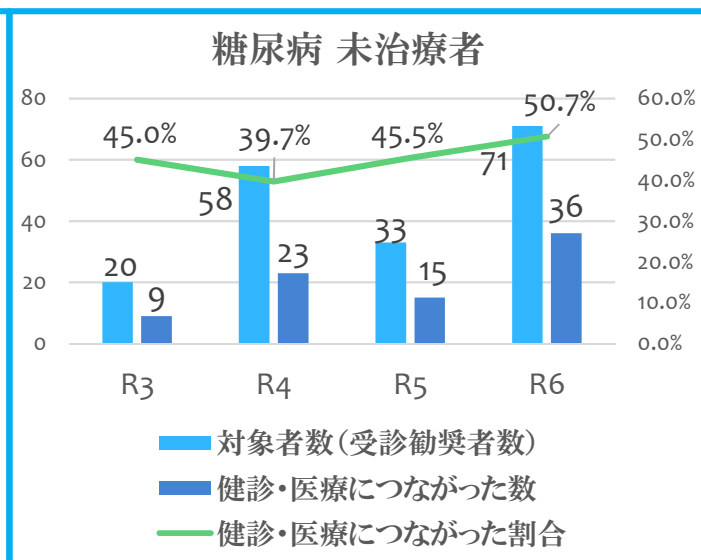
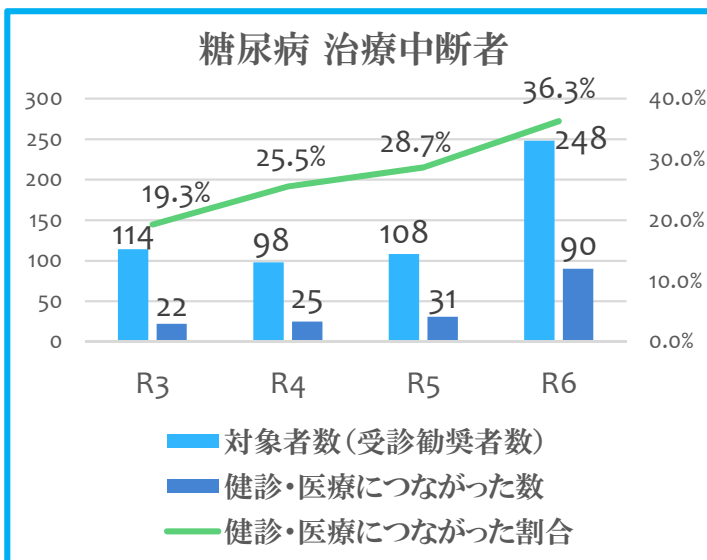
# 糖尿病性腎症重症化予防対策事業の

## 対象者数と実施者数（初回面接実施者数）

及び治療中断者、未治療者への対応



- R6年度は対象者、実施者ともに減少したが実施率は増加（R5：83.6% R6：85.6%）
- 10月末時点の比較ではR7年度実績は前年度同様の推移



- 未治療者のほうが受診につながりやすい傾向

※R6年度より治療中断、未治療期間の条件を変更したため対象者数が増加

# 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

健康寿命の延伸や介護予防を視野に入れた後期高齢者医療制度移行後のシームレスな保健事業をR2年度から開始。ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを実施。

## ①ハイリスクアプローチ（後期高齢者健康診査の結果に基づく個別支援）

### 【糖尿病性腎症重症化予防事業】

健診年度	対象者数	初回実施率
R3年度	204	73.5%
R4年度	155	80.6%
R5年度	93	95.7%
R6年度	100	93.0%

### 【低栄養防止(フレイル予防)事業】

健診年度	対象者数	初回実施率
R3年度	270	73.3%
R4年度	356	59.0%
R5年度	263	96.6%
R6年度	226	86.7%

## ②ポピュレーションアプローチ

健診年度	介護予防事業等でのミニ健康教育		気軽に相談できる環境づくり
	実施回数	実施人数	フレイル等の相談対応人数
R3年度	8会場	164	93
R4年度	13会場	274	145
R5年度	10会場	336	180
R6年度	10会場	369	192

# 各種がん検診について

健康づくり課

# 各種がん検診の概要

## 【目的】

がんの早期発見の推進を図ることにより、がん死亡率減少を目的として実施

	対象年齢	検査方法
肺がん検診	40歳以上	胸部エックス線
大腸がん検診	〃	免疫便潜血
子宮頸がん検診※1	20歳以上	頸部細胞診（30歳代はHPVも併用）
乳がん検診※1	30歳代	超音波
	40歳以上	マンモグラフィ
胃がん検診※1	40歳代	胃部エックス線
	50歳以上	胃部エックス線 又は 内視鏡
前立腺がん検診※2	50歳以上	PSA（前立腺特異抗原）

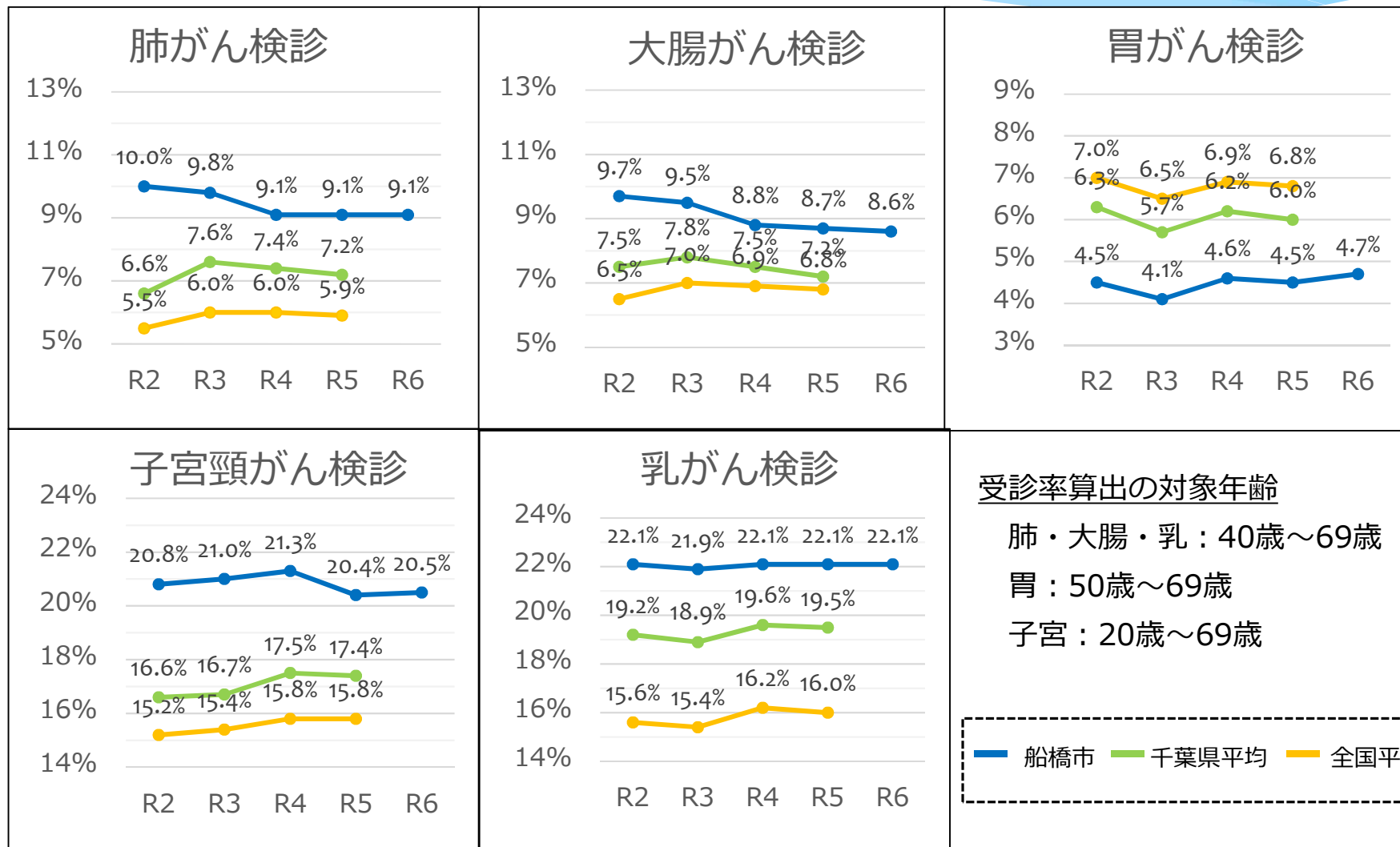
※1…2年に1回の検診 ※2…5年に1回の検診

## 【実施方法】

船橋市医師会 に委託	肺・大腸・前立腺：約170医療機関 子宮：約20医療機関 乳：約30医療機関 胃：約60医療機関
実施期間	肺・大腸・前立腺：5月～翌年3月末 子宮・乳・胃：4月～翌年3月末
受診券発送	誕生月に応じて、対象者に受診券を個別発送（※胃がん検診は登録制）

# 各種がん検診の受診率の推移

(地域保健・健康増進事業報告)



## 今後の課題と対応

### 【課題】

- 市が把握する受診者数は市のがん検診受診者のみであるため、他の機会に検診を受診した方（職域・人間ドック等）を考慮した分析ができない



国の指針が改正され、「市町村が職域等がん検診の受診状況を把握し、これを踏まえた適切な受診勧奨及び精密検査勧奨に努めること」と示された。

把握の取組を進めるとともに、国において、市町村が職域等がん検診情報を正確に把握する仕組みの構築について検討することが示されているため、今後の動向に注視していく。